

第七十一回県川柳大会選考結果

特別選「授業」

江畑 哲男 氏 選

◎人 位

春は曙 チョークが頭上掠めてく

青 森 熊谷 冬鼓

【評】「春は曙」という入りと、「チョークが頭上

掠めてく」というコントラストが面白い。

◎佳 作 (20句)

黒板が性善説を説きたがる

黒 石 柳田 健二

青空に頬づえをつく五時間目

藤 崎 佐藤 雅秀

授業中ラムネ抜いてはいけません

弘 前 阿部 治幸

カルチャーで呆けない授業受けている

青 森 寺田 無垢

参観日父は後部の陰に立つ

五所川原 白川 莫

授業料高くついたか夜の街

青 森 鈴木 貴子

居酒屋で課外授業を受けている

黒 石 石澤はる子

目を開けて眠れる業が付く授業

む つ 高橋 樟

孫ほどの講師に学び五七五

青 森 尾形せいじ

DNA授業終ると冴えてくる

青 森 常田チャコ

◎天 位

丸腰で熱血先生耐えている

青 森 太田 久

【評】学校現場は面白おかしくも、教師は耐える

ことが多い。そういう意味で、古今東西にある授

業のさまざまな百面相を読んでいる。

◎秀 逸 (5句)

居眠りを諭す教師も過労です

青 森 三浦 敬光

大抵の授業の価値は死後分かる

東 京 伊藤 良彦

立たされた廊下が僕の始発駅

東 北 井上 健蔵

授業から見えるディフォルメされた空

弘 前 千島 鉄男

レッスンワンこの世に神は棲んでない

黒 石 柳田 健二

◎地 位

過払い金とつても痛い授業料

青 森 野沢 省悟

【評】現代的な作品。夜の街の授業料だったり、お

金の過払い金の授業料だったり…いろいろとあ

りますが、「面白く読ませてもらった。

特別選「授業」

父ちゃんが先生になる沖の船

八戸 瀧尻 善英

授業より昼の献立て気にかかる

弘前 稲見 則彦

抜け出した授業八十路の夢に出る

十和田 佐藤 允昭

女教師の授業参観日のメイク

十和田 佐々木銀湖

雄しべ雌しべに愛はあるかと聞いてみる

青森 田沢 恒坊

参観日夫婦そろって行くという

平内 沼山 久乃

休み時間生徒に習う流行語

つがる 濱山 哲也

授業する前に合わせておく時計

青森 小野 五郎

授業中ブラックホールに落ちている

青森 村田けん一

教室の窓からのぞむ雲の峰

黒石 佐藤 古拙

宿題「うっかり」

大黒谷サチエ氏

むさし氏

(二氏共同選)

大黒谷サチエ氏 選

◎秀 逸 (5句)

水平線を探して森に来てしまう

蓬田 むさし

頂点の時人間のすきがある

青森 野呂 尚史

愚痴するり蛇口を抜けた白昼夢

青森 鈴木みさを

夕焼けを待たずに蓋を開けました

弘前 千島 鉄男

すべらした本音に記者が群れてくる

黒石 佐藤 古拙

◎天 位
セレモニーホールで河馬の顔になる

青森 野沢 省悟

◎地 位

檜山の土で瓦を焼いている

青森 田沢 恒坊

◎佳 作 (25句)

春うららオートロックという他人

青森 吉田 州花

逢いに行く仮分数だと気づくまで

青森 熊谷 冬鼓

暴発にかすめとられた未来地図

黒石 千葉 風樹

卵割る未熟なアヒル飛び出した

今別 綿谷夕雨子

ヒョットコの吹矢を見逃した不覚

黒石 千葉 風樹

私の命日 昨日だったはず

東京 伊藤 良彦

死に神の瞳に恋をしてしまう

南部 八木田幸子

夕飯を焦がす母への長電話

青森 木村 美映

天と地を逆さに置いてしまう

弘前 福多あられ

人間を演じ切れずに角ツノが出る

青森 新山風太郎

つい坂でまあるなくなった団子虫

八戸 田鎖 晴天

虎の尾を踏んでしまった影法師

青森 工藤 青夏

神の手に置いていかれた白いメス

青森 種市みどり

見落とした共白髪への道標

青森 里村みつこ

背表紙で買ってしまった同じ本

青森 原口 健二

◎人 位

振り向けば測った影に計られる

東北 井上 福子

宿題「うっかり」

零した涙はピエロがくれたもの

五所川原 成田 我楽

うっかりに気付きひたすら亀になる

黒石 尾上 宏

ボクが迷い込んだ善人の集まり

鶴田 松山 芳生

本当のあなたを知らぬ人が泣く

平内 沼山 久乃

手鏡でうっかり者を攻めている

弘前 内山 孤遊

うっかりと平目になった鱧の目

むつ 畑中 月穂

うっかりと迷った道に座禅草

弘前 斉藤 効

ミサイルを両手でキャッチしてしまう

弘前 船水 葉

銀バエがうっかり止まる核ボタン

青森 野沢 省悟

ジープの穴を繕い叱られる

青森 寺田 無垢

むさし 氏 選

◎天 位

うっかり混ぜたため息の 萌黄色

弘前 福多あられ

◎地 位

君の背広と 私の朝をまちがえる

青森 吉田 州花

◎人 位

菜箸でうっかりつつく絵画展

青森 熊谷 冬鼓

◎秀 逸 (5句)

うっかりもYESもきつと同じ意味

東京 伊藤 良彦

振り向けば測った影に計られる

東北 井上 福子

秋風に値引きシールを貼られてる

東北 井上 健蔵

ミサイルを両手でキャッチしてしまう

弘前 船水 葉

人間を演じ切れずに角つのが出る

青森 新山風太郎

◎佳 作 (25句)

うっかりと平目になった鱧の目

むつ 畑中 月穂

寂しくて真っ直ぐ逃げる鬼ごっこ

青森 三浦 敬光

削除キー押した瞬間からの鬱

弘前 稲見 則彦

うっかりに気付きひたすら亀になる

黒石 尾上 宏

ボクが迷い込んだ善人の集まり

鶴田 松山 芳生

うっかりと付けた仮面が外せない

八戸 田鎖 晴天

ところでさ此の世のビザが切れている

青森 小野 五郎

舷側にレーダーがないイージス艦

青森 滋野 さち

宿題「うっかり」

うっかりと彼を丸呑みしたらしい

五所川原 沢田百合子

不注意も故意も怖いな核ボタン

岩手 野口 一滴

何気なくハイと返事をしただけです

むつ 高橋 星湖

つまずいて核のボタンを押しちゃった

藤崎 佐藤 雅秀

矢面に立たされていたお人好し

八戸 瀧尻 善英

うっかりとユダとハグした僕である

大鱈 香田 龍馬

耳もとでささやかれると火傷する

黒石 北山まみどり

背表紙で買ってしまった同じ本

青森 原口 健二

本音ふと洩らしてからの間柄

八戸 豊巻つくし

うっかりで授かった子が自慢です

青森 鈴木 貴子

寝すごしてもひまな一日やってくる

黒石 柳田 健二

うっかりと零した種が実を結ぶ

弘前 斉藤 苺

卵割る未熟なアヒル飛び出した

今別 綿谷夕雨子

銀バエがうっかり止まる核ボタン

青森 野沢 省悟

推薦状を挑戦状と見まちがう

青森 工藤 青夏

うっかりを妻はポケだと蝉時雨

青森 村田けん一

うっかりが積まれ増えてく後頭部

青森 森 雄岳

宿題「付度」

沼山 久乃 氏

三浦 蒼鬼 氏

(二氏共同選)

沼山 久乃 氏 選

◎天 位

付度まんじゅう食べて蜥蜴は出世する

南部 八木田幸子

◎地 位

秀吉の草履はいつの世も闊歩

青森 工藤 青夏

◎人 位

付度の仕上げは素敵なハミング

五所川原 成田 我楽

◎秀 逸 (5句)

大空へ落ちたいんだね青林檎

東北 井上 健蔵

付度はなしたんぼの無表情

五所川原 佐藤寿見子

付度で程よく吊り橋が揺れる

黒石 北山まみどり

付度の加減驕りで見失なう

黒石 柳田 健二

言い淀むピュアな心が愛しくて

南部 八木田幸子

◎佳 作 (25句)

付度も不倫も飽きたコンセント

青森 熊谷 冬鼓

樹木葬ソメイヨシノがいいかしら

青森 村田けん一

尊厳死ざわざわ萩が揺れている

青森 滋野 さち

ひらひらと今日は金魚になりましょう

青森 吉田 州花

年金の支給日までは死なないで

青森 木村 美映

被害者を付度してる湿度計

黒石 大黒谷サチエ

そつとしておこうこころを開くまで

弘前 斉藤 荔

内緒です僕の手握るいい予感

青森 新山風太郎

天皇は付度抜きで隠居する

青森 三浦 敬光

付度の機微には疎いアホウ鳥

青森 山本 弘志

魚ごころ飲めばのっぺらぼうになる

岩手 野口 一滴

欲の皮張り裂けるまでヨイシヨする

青森 村上あつこ

気を遣い余計なことと叱られる

青森 原口 健二

付度と合わせもつてる僻む癖

青森 鈴木 貴子

付度は陰の主役がよく似合う

黒石 尾上 宏

元気かと聞かれ元気のふりをする

弘前 船水 葉

三浦 蒼鬼 氏 選

大空へ落ちたいんだね青林檎

東北 井上 健蔵

付度を粹に仕上げたおもてなし

むつ 高橋 樟

◎天 位

炙り出しで描いた付度見せられる

加害者も被害者も貼るカット絆

青森 千葉かほる

青森 熊谷 冬鼓

◎佳 作(25句)

我が脳に付度よりも研磨剤

青森 櫻庭 美枝

◎地 位

尊厳死ざわざわ萩が揺れている

利己主義というもてなしの椅子がある

弘前 千島 鉄男

青森 滋野 さち

付度の仕上げは素敵なハミング

付度の着ぐるみを着た 母がいる

弘前 福多あられ

◎人 位

ふところに潜るかたちで気を叩る

付度は疑心暗鬼の裏返し

青森 佐藤たつお

鶴田 松山 芳生

うやむやの甘さを探る匙加減

付度があつたかなんて俄雨

今別 綿谷夕雨子

内緒です僕の手握るいい予感

バリアフリー家族でずっと笑い合う

黒石 千葉 風樹

◎秀 逸(5句)

付度はなしたんぼぼの無表情

古い手紙は残さず食べちゃった

つがる 鳴海 賢治

魚ごころ飲めばのっぺらぼうになる

付度で程よく吊り橋が揺れる

黒石 北山まみどり

正論を吐いた流れに逆らえぬ

五所川原 櫛引八千代

宿題「付度」

つうかあで落ちてしまった水溜り

むつ 高橋 星湖

忠告はもう少し見てからにする

八戸 豊巻つくし

被害者を付度してる湿度計

黒石 大黒谷サチエ

付度を期待している鬼の爪

青森 種市みどり

鋭角でくる付度はいりません

青森 常田チャコ

気がつけば真実はみな闇の中

青森 村上あつこ

「生きます」と告げれば帰る窓の月

東北 井上 福子

付度のかたまりになる介護の手

弘前 福多あられ

言い淀むピュアな心が愛しくて

南部 八木田幸子

付度をされては困る核ボタン

青森 村田けん一

付度の賞味期限は八ヶ月

青森 小野 五郎

ご意向が付度を追い越しました

佐井 渡邊 寂隆

付度されてもおかえしできません

青森 鈴木 貴子

付度は陰の主役がよく似合う

黒石 尾上 宏

付度をしているうちに日が暮れる

弘前 福士 慕情

蟻走る付度をする暇がない

青森 福田 文音

付度があつたかなんて俄雨

今別 綿谷夕雨子

宿題「タイミング」

沢田百合子 氏

野沢 省悟 氏

(二氏共同選)

◎秀 逸 (5句)

明日あたり完熟になるつもりです

蓬田 むさし

告発のときを逃がした葱坊主

青森 村田けん一

虹がでた小言いうのは今でしょう

青森 福田 文音

飛び乗った電車の先に虹架かる

青森 前田 悠遊

本当の勝負は泣いてから決まる

東京 伊藤 良彦

満開に宣戦布告するつもり

岩手 野口 一滴

沢田百合子 氏 選

饒舌になった 散り時なのだろう

弘前 高瀬 霜石

五所川原 佐藤寿見子

◎天 位

十年に一度鼻が神懸かる

青森 小野 五郎

いざ老後 ジャックよ登れ豆のつる

東北 井上 健蔵

地下道を回りばったり合っちまう

黒石 北山まみどり

◎地 位

一度だけ同化しました濃いブルー

今別 綿谷夕雨子

◎佳 作 (25句)

ミサイルが先か卵が孵化するか

青森 滋野 さち

脳死ですねとたんぽぽが咲きました

つがる 濱山 哲也

雨になる九月 私の野辺送り

青森 吉田 州花

ボタンが取れた ポリープを切除した

弘前 千島 鉄男

◎人 位

負け犬の前で優しさ売り切れる

つがる 濱山 哲也

アマガエル値引き時間を知っている

青森 熊谷 冬鼓

シチューくつくつ家を楯円にした地震

つがる 鳴海 賢治

絶滅を訴えている鳥獣戯画

黒石 佐藤 古拙

宵宮で 鼻緒が切れて 満月で

東北 井上 福子

宿題「タイミング」

スーパームーン君を独り占めのチャンス

弘前 船水 葉

野沢 省悟 氏 選

ブランコを漕げば ハムレットの科白

青森 工藤 青夏

シナリオに書き込む吐息する時間

弘前 阿部 治幸

◎天 位

タイミングずれたまんまの骨拾う

青森 村田けん一

ミサイルが先か卵が孵化するか

青森 滋野 さち

ブランコを漕げば ハムレットの科白

青森 工藤 青夏

死に神と呼吸が合わぬ死ねません

青森 山本 弘志

◎地 位

饒舌になった 散り時なのだろう

弘前 高瀬 霜石

おいお茶ボクに言わせたことがない

青森 三浦 敬光

平凡な夢の続きはまたあした

鶴田 松山 芳生

◎人 位

許せない宴たけなわの締め蕎麦

弘前 阿部 治幸

陽は海にやがて私も風となる

青森 太田 久

透明な殺意に出会う交差点

黒石 千葉 風樹

待ってたよカボチャが馬車に変わる時

青森 村上あつこ

お受けする寂しい時のアドバイス

青森 三浦 敬光

噂した当人が来る間の悪さ

青森 佐藤たつお

◎秀 逸 (5句)

時は今 予算を増やす防衛省

青森 原口 健二

好機待つ虎は眠ったふりをする

黒石 柳田 健二

おい鬼太郎いまが世直し時じゃ いざ

弘前 内山 孤遊

パックした時に限って鳴る電話

青森 三浦 清雪

つまんでポイ猫が見ていた洗たく機

青森 鈴木 貴子

絶滅を訴えている鳥獣戯画

黒石 佐藤 古拙

カフカ読み終えたら大の字で寝よう

弘前 千島 鉄男

アマガエル値引き時間を知っている

青森 熊谷 冬鼓

タイミング計ってばかり踏み出せぬ

弘前 福士 慕情

宿題「タイミング」

上げた手を下せず髪を手櫛する

佐井 渡邊 寂隆

回り道苦手な顔がやってくる

むつ 高橋 樟

タイミングが合ったから僕が産まれた

青森 神 千巖

出し損ねたジョーカー回収します

五所川原 成田 我楽

タイミングわざと外して出方見る

青森 長谷川光風

明日あたり完熟になるつもりです

蓬田 むさし

ミッドウエーあの時やめるべきだった

大鰐 村井 規子

ハッピーエンドだった蕎麦はのびていた

五所川原 沢田百合子

いざ老後 ジャックよ登れ豆のつる

東北 井上 健蔵

さりげなく突っ込みいれるピエロです

青森 前田 厚兵

ミサイルのボタンを撫でる独裁者

青森 田沢 恒坊

度を過ぎてしまえばただのお節介

黒石 北山まみどり

決定的瞬間記録するスマホ

八戸 田鎖 晴天

鬼灯を鳴らす間合いや老眼鏡

青森 前田 悠遊

告発のときを逃がした葱坊主

青森 村田けん一

竹山の三味線しやみに合わせて雪が舞う

青森 木村 美映

リンクせぬ体内時計と実時間

青森 木村 美映

宿題「駅」

◎秀 逸（5句）

朝七時駅まで駆けた三年間

青森 原口 健二

遺言書網棚にのせ駅通過

青森 里村みつこ

無人駅豪華列車が通過する

青森 鈴木 貴子

佐藤 允昭 氏
千島 鉄男 氏
（二氏共同選）

新郎に託して閉じる父の駅

青森 鈴木みさを

ぬくもりをください菜の花駅に佇つ

弘前 船水 葉

下車をする訛のにおいする街に

鶴田 松山 芳生

デコボコの人生だったローカル線

青森 千葉かほる

佐藤 允昭 氏 選

終着の駅に答えがあるだろう

八戸 瀧尻 善英

りんご食むお口ならんで北の駅

青森 尾形せいじ

奈落駅 降りて三人産みました

東北 井上 福子

出直しは終着駅を始発する

青森 長谷川光風

折れた羽根纏って発つ始発駅

東北 井上 福子

空っぽのリュックひとつの無人駅

弘前 福多あられ

◎地 位

人生の旅路の果てに母の駅

青森 太田 久

始発駅母が忍ばす包み金

むつ 畑中 月穂

国訛りたつぷり盛った道の駅

弘前 稲見 則彦

頑張るとやる気の顔で駅を発つ

青森 新山風太郎

かつぎ屋も生徒も乗った無人駅

青森 小山田英子

大器晩成終着駅が近くなる

八戸 豊巻つくし

無人駅高倉健が立っている

青森 前田 厚兵

廃駅でまぶた閉じれば国なまり

青森 寺田 無垢

駅弁が似合う鈍行ひとり旅

黒石 大黒谷サチエ

◎人 位

家族という駅を背負った父の貨車

弘前 福士 慕情

青春の始まりだった上野駅

青森 種市みどり

銀河鉄道に乗ってあなたの駅に着く

青森 田沢 恒坊

泥葱が迎えてくれる道の駅

八戸 田鎖 晴天

がんばれよ父の言葉が始発駅

つがる 濱山 哲也

プラットホームヒト科の群れにいて孤独

黒石 柳田 健二

駅裏に僕の秘密の縄のれん

青森 和田 文雄

いかり肩だったのは改札抜けるまで

青森 吉田 州花

二時間待った 昭和の駅の伝言板

青森 工藤 青夏

万歳で兵士送った駅の悲話

南部 八木田幸子

廃駅の壁に相合傘を描く

青森 木村 美映

千島 鉄男 氏 選

◎天 位

ぬくもりをください菜の花駅に佇つ

弘前 船水 葉

◎地 位

廃駅の鉄路かすかな音がする

青森 村田けん一

◎人 位

寄り添って夕陽を抱いた水の駅

鶴田 松山 芳生

◎秀 逸 (5句)

トレモロの中に見つけた母の駅

五所川原 佐藤寿見子

廃線の駅舎コスモス揺れている

十和田 佐藤まさあき

終着駅に僕の温もり置いてきた

青森 森 雄岳

振り出しは駅舎からです雪でした

五所川原 成田 我楽

終着の駅に答えがあるだろう

八戸 瀧尻 善英

◎佳 作 (25句)

耳底のサイギサイギは母の駅

東北 井上 健蔵

名も知らぬ駅だが父の匂いする

青森 工藤 青夏

元気です東京駅で乗り換える

青森 熊谷 冬鼓

1番線に夢追い人が立っている

弘前 高瀬 霜石

駅止めの荷物にされたぼくの影

弘前 阿部 治幸

見送りの悲喜こもごもを運ぶ駅

五所川原 白川 莫

鈴生りの柿が揺れてる通過駅

青森 三浦 清雪

新宿駅にぼろぼろ落ちている尻尾

弘前 内山 孤遊

宿題「駅」

東京駅に降りたアホウドリになった

五所川原 沢田百合子

銀河鉄道に乗ってあなたの駅に着く

青森 田沢 恒坊

誤字脱字ここが私の始発駅

黒石 北山まみどり

ほろにがい心に消えぬ駅がある

青森 小山 洋子

上野駅金の卵の物語り

黒石 佐藤 古拙

新生児室で鳴ってる発車ベル

黒石 千葉 風樹

こころ旅訪ねて欲しい駅がある

南部 八木田幸子

家族という駅を背負った父の貨車

弘前 福士 慕情

ボクは鈍行毎日が駅である

青森 三浦 敬光

始発駅にんげんドラマ垣間みる

岩手 野口 一滴

ザワザワと風が吹いてる俺の駅

青森 村上あつこ

朝のホームで青春の列にいる

弘前 斉藤 焔

孤独感噛み締めている里の駅

大鰐 香田 龍馬

デコボコの人生だったローカル線

青森 千葉かほる

道の駅から生きがいを買ってくる

弘前 福多あられ

途中下車乗り継ぐ先は天の川

今別 綿谷夕雨子

はじめての駅って母のおっぱいだ

青森 野沢 省悟

席題A 「衆」

◎秀 逸（5句）

衆愚政治をあの世で嘆く鶴彬

群衆がすすきが原に見えてくる
蓬田 むさし

田鎖 晴天 氏

青 森 木村 美映

皆の衆温暖化つて冷やせるの

高瀬 霜石 氏

群衆のひとりひとりにあるドラマ

青 森 佐藤 武

（二氏共同選）

五所川原 沢田百合子

大衆の真ん中に居るのに孤独

わたくしもビックデータの点である

青 森 熊谷 冬鼓

大衆のひとり握っていた火種
大 鱈 香田 龍馬

田鎖 晴天 氏 選

皆の衆歌った昭和懐かしむ

青 森 鈴木 貴子

わたくしも「あんな人達」そのひとり
南 部 八木田幸子

◎天 位

民の声津波になる日きつとくる

八 戸 瀧尻 善英

大衆魚群れて大魚の貌をする

黒 石 柳田 健二

観衆の余韻に湧いたアンコール

大 鱈 村井 規子
弘 前 福士 慕情

◎地 位

衆生救済弥陀の心に叛く核

大衆のパワーを秘める高齢者

八 戸 豊巻つくし

難局は衆知を集め乗り切ろう

弘 前 福士 慕情

若い衆がとんと見えない村祭り

青 森 長谷川光風

◎人 位

九条危機腹ふくれぬか皆の衆

被災地へ援軍の列蟻の列

十和田 佐々木銀湖

群衆は右向く僕は上を向く

青 森 山本 弘志

黒 石 大黒谷サチエ

青 森 森 雄岳

群衆は駆け込み寺が好きである

ご意向を鵜呑み丸呑み御側衆

弘 前 千島 鉄男

佐 井 渡邊 寂隆

国民大衆より大切なのはお友達

青森 田沢 恒坊

高瀬 霜石 氏 選

聴衆が怖い街宣传周知せず

弘前 阿部 治幸

◎天 位

遮断機の向こうに熟れる柿たわわ

大衆に媚びる選挙の期間だけ

弘前 船水 葉

東北 井上 健蔵

衆愚にはなりたくなくて投票に

青森 原口 健二

◎地 位

群衆がすすきが原に見えてくる

煽られて衆愚の道へなだれこむ

青森 工藤 青夏

蓬田 むさし

おーい空 衆愚政治は見えますか

東京 伊藤 良彦

◎人 位

九条つていいなあ渋谷交差点

大衆にもてはやされてテレビの子

十和田 佐藤 允昭

藤崎 佐藤 雅秀

9条も下ネタも載る大衆紙

青森 村田けん一

◎秀 逸 (5句)

立佞武多仰ぐ烏合の衆である

弘前 斉藤 荔

群衆の先頭に立つ雨蛙

今別 綿谷夕雨子

納税は使命酒飲み煙草呑み

弘前 高瀬 霜石

大衆酒場で難破船と出会う

弘前 稲見 則彦

人脈を辿ると黴の匂いする

弘前 千島 鉄男

めだかには進軍ラッパよく聞こえ

五所川原 佐藤寿見子

わたくしも「あんな人達」そのひとり

大鰐 村井 規子湖

◎佳 作 (25句)

地獄変わったしの席はどこですか

青森 小野 五郎

だんだんゆるみはじめる紙の家

青森 和田 文雄

群衆のひとりはずきとエイリアン

青森 野沢 省悟

船底の貝びつしりとマスゲーム

青森 熊谷 冬鼓

群衆の中で君だけ光ってた

青森 村田けん一

観衆は私の尻をどう見るか

東京 伊藤 良彦

やつてごらん路上生活楽ですよ

青森 太田 久

下衆な花なんてないから咲いている

弘前 福多あられ

席題A「衆」

手をつなぐ同じ時代を生きてきた

五所川原 櫛引八千代

群衆は右向く僕は上を向く

青森 森 雄岳

ポケモンをみんなで探す森がある

青森 種市みどり

脇役は一人もないおでん鍋

青森 三浦 敬光

大衆はこんな人達だったんだ

むつ 高橋 樟

人文字の端に小心者の僕

八戸 瀧尻 善英

ボクはもう合衆国を見放した

弘前 船水 葉

愛されて媚びない肉ジャガだったはず

五所川原 沢田百合子

民衆はりんどうの花称えあう

青森 福田 文音

日本中みんなピエロになる桜

青森 田沢 恒坊

希望とは絶望 烏合の衆ですし

青森 木村 美映

大衆のひとり握っていた火種

南部 八木田幸子

でこぼこでよかった人が寄ってくる

黒石 北山まみどり

群衆の中にまぎれてほっとする

むつ 畑中 月穂

Jアラート戦争ごっこやめましょう

青森 前田 悠遊

雑魚ばかりつかまる消費税の網

青森 野沢 省悟

小池劇場前売券はどこですか

弘前 内山 孤遊

席題B 「AI (人工知能)」

柳田 健二氏

工藤 青夏氏

(二氏共同選)

柳田 健二氏選

◎天 位

ロボットよ泣くな私が泣くのです

蓬田 むさし

◎地 位

アナログの味と香りで行く浄土

青森 千葉かほる

◎人 位

ロボットが怒る鶏冠を立てました

弘前 千島 鉄男

◎秀 逸 (5句)

ロボットにひとりじゃないと解される

弘前 辻口風来坊

AIに改竄された進化論

青森 神 千巖

鉄腕アトムが隣の家に住んでいる

弘前 高瀬 霜石

AIと咲かせた花は吾亦紅

弘前 福多あられ

AIも花のときめき読みきれず

青森 新山風太郎

我が子より頼りになって介護ロボ

つがる 高橋せい子

AIの余命宣告ハズレない

藤崎 佐藤 雅秀

付け届けしておきました介護ロボ

青森 里村みつこ

AIに汗と涙をハンダ付け

つがる 濱山 哲也

人になるホタルを忍ばせたパソコン

黒石 北山まみどり

AIが仕組むボクの近未来

鶴田 松山 芳生

葦一本まだAIに負けられぬ

弘前 斉藤 荔

顔認証仮面はずして素に戻る

弘前 辻口風来坊

AIが書いた小説「人の知能」

青森 森 雄岳

客引きがとても上手なロボットです

青森 三浦 敬光

AIの基地で笑えぬ影法師

青森 千葉 風樹

プリズムをかざすと君のデータだけ

五所川原 成田 我楽

釈迦様を超えられますかコンピュータ

今別 綿谷夕雨子

AIに頼りつきりで紙風船

むつ 高橋 星湖

AIチップで埋めて私も進化する

岩手 野口 一滴

◎佳 作 (25句)

恋をしてからAIの反抗期

青森 村田けん一

工藤 青夏 氏 選

多機能を駆使して人は墮落する

弘前 千島 鉄男

◎天 位

人になるホテルを忍ばせたパソコン

ロボットが怒る鶏冠を立てました

弘前 千島 鉄男

AIも川柳まではこなせない

八戸 豊巻つくし

黒石 北山まみどり

鉛筆に人工知能をひそませる

弘前 稲見 則彦

AIの遠いところにある涙

五所川原 佐藤寿見子

◎地 位

AIにリストラされた椅子である

◎佳 作(25句)

AIにボクの嫁さん探させる

青森 田沢 恒坊

AIにボクの嫁さん探させる

青森 田沢 恒坊

弘前 齊藤 焔

ロボットとお見合いしたら気が合った

東北 井上 福子

ドラえもん位でやめておきましょう

五所川原 沢田百合子

◎人 位

ロボットよ泣くな私が泣くのです

蓬田 むさし

AIの遠いところにある涙

五所川原 佐藤寿見子

AIもゾンビも怖い生き返る

弘前 高瀬 霜石

◎秀 逸(5句)

付け届けしておきました介護ロボ

青森 里村みつこ

AIに教えAIから切られ

八戸 瀧尻 善英

AIに教えAIから切られ

八戸 瀧尻 善英

リモコンを押しても月が笑わない

東北 井上 福子

ダダンダダンターミネーター北を討つ

弘前 内山 孤遊

AIが死ぬ時水は要りますか

青森 小野 五郎

AIの宅配便が空を飛ぶ

黒石 大黒谷サチエ

人工知能ボクと勝負をしませんか

大鰐 香田 龍馬

AIに頼りっきりで紙風船

むつ 高橋 星湖

バーチャルな墓標が待つている未来

十和田 佐々木銀湖

AIにわかるか心太の味

青森 野沢 省悟

百才の舌がAI問いはじめ

五所川原 櫛引八千代

客引きがとても上手なロボットです

青森 三浦 敬光

モナリザの微笑をAIに仕込む

青森 野沢 省悟

ダダダダダターミネーター北を討つ

弘前 内山 孤遊

AIが感情論で攻めてくる

五所川原 白川 莫

AIにさよなら縄文返りする

南部 八木田幸子

AIが運命線を解読する

藤崎 佐藤 雅秀

川柳もいずれAI対ヒト科

弘前 稲見 則彦

AIに組み込んでおく笑いヨガ

青森 神 千巖

プリズムをかざすと君のデータだけ

五所川原 成田 我楽

核ボタンAI勝手に押す恐れ

弘前 阿部 治幸

AIに匠の技も乗つとられ

八戸 瀧尻 善英

鉄腕アトムが隣の家に住んでいる

弘前 高瀬 霜石

AIの機器に風の子吹き溜まり

八戸 田鎖 晴天

AIに汗と涙をハンダ付け

つがる 濱山 哲也